

「聴く力」を基盤とした合唱活動

—ハーモニートレーニングを通じた「聴く力」の育成—

大学院教育学研究科芸術教育専攻音楽科教育学領域

瀬島章恵

筆者は小学校から大学時代に合唱部や合唱団に所属していた。その経験の中で、高校時代の合唱活動と比較して、全国大会で金賞を取ることの出来た一般合唱団では、音楽的要素に耳を傾けて歌おうとしている団員の割合が多いと感じた。このことから、より音楽的に質の高い演奏をするために、音楽的要素に耳を傾けた活動を取り入れるべきであると感じた。また、筆者の経験した合唱活動の中で、ハーモニートレーニングを行う場面が多くあったが、楽曲の練習とハーモニートレーニングは分離されているのが現状である。

そこで、本研究では、ハーモニートレーニングと楽曲の練習が関連し、音楽的理解を深めるとともに「聴く力」を養うことのできる歌唱領域の授業指導案の提案を目的とした。

第1章では、「聴く力」に関する先行研究から、「聴く力」を「音楽を特徴づけている要素や音楽の仕組みを聴き取る力」とし、ハーモニーに着目した「聴く力」に関する先行研究から、ハーモニーに関しては子どもが自ら問題を意識し、解決することが難しいということを示した。

第2章では、合唱活動におけるハーモニーを揃えることの目的及び意義について考察した。また、子どもがハーモニーを知覚し、自ら問題意識を持ち音楽活動に取り組むことで、どのような音楽的成長が見られるのか、ということも考察した。そして、合唱活動の中で行われているハーモニートレーニングを挙げ、第3章では、それらを活用した歌唱領域の授業指導案を小学3年、小学6年、中学1年、中学3年と、学年ごとに提案した。

本研究を通して、ハーモニーに着目した合唱活動を行うことで、ハーモニーを形成する上で重要な音色や音程、縦と横のテクスチャやそれによる音楽的な高まりや静まりなどの様々な音楽的要素を感じることや、「聴く力」により感じ取った音や音楽の諸要素を踏まえ演奏に対する自分の意見を言うこと、周りの人の音を聴き、自分の歌っている音を調整するといった技術面の工夫や表現の工夫をすること、音や音楽の諸要素を使った音楽的コミュニケーションを図ること、楽曲を鑑賞する際の着眼点が音や音楽の諸要素に基づいたものになること、といった音楽的成長があると分かった。

また、ハーモニートレーニングと楽曲の練習が関連し、子どもの音楽的理解を効果的に深めるためには、ハーモニートレーニングをただ行うだけではなく、音色や音程、縦と横のテクスチャといった身につけさせたい音楽の諸要素に着目することができるように、適切なハーモニートレーニングを選択して行うべきであるということも分かった。

本研究の授業指導案の提案は一定の研究成果であると考えられるが、実際に学校教育現場で実践し、成果を確かめながら問題点を改善し、より良い合唱活動を考案していくことを今後の課題としたい。また、今回使用したハーモニートレーニングだけではなくその他のものについても同様に研究していきたい。